

「村越愛策氏の公共交通系サインの確立と普及活動」に対して

株式会社 アイ・デザイン：村越愛策



東京国際空港（羽田）国際線出発ターミナル内部1F 1970年



営団地下鉄千代田線大手町駅 1973年 撮影：大川 彪



成田開港後、再整備された東京国際空港（羽田）出発ロビー 1988年

私は公共サインのデザインを専門としている。特に交通環境については、1964年に東京オリンピックを迎えた羽田空港、1970年には大阪万国博の伊丹空港や阪神電車・梅田駅などを手掛けた。さらに成田開港のあった新東京国際空港、1972年の営団地下鉄・千代田線の大手町駅でも試行錯誤を繰り返した。これらの時期は、日本における交通＝公共サインの創成期でもあった。「交通とはドアからドアへの移動手段」といわれるように、徒歩も含めて連続性の確保が重

要であるが、そのためには移動の結節点（バス停、駅、空港）における情報の整理とその優先度が問題になる。そこで、利用者にとって必要な情報を提供するために「記名、誘導、案内、規制」といったサインの機能別分類、「形状、色彩、文字、ピクトグラム」といった伝達要素、さらに要素の多い地図や路線図、環境に関わる取り付け位置など、いわゆるサインシステムが必要となる。また、情報とは、一言でいえば「人間行動に役立つ知識」といわれている。長年、視覚伝達デザインを多く

の専門家と協働という形で続けてきたが、当初の試みに対して私個人が評価をいただいたことは大変名誉なことである。公共サインは人々の移動に直接関わるので、今後も国籍・老若男女を問わず、わかりやすい公共サインが普及することを願ってやまない。ここでSDAの関係者各位に対して、改めてお礼を申し上げる次第である。